最近おもうこと

Created by Wataru Nishino 06/02/15

格差とは

早いもので、今年も確定申告の時期を迎えました。先日、不動産の譲渡を行った方の相談会に行きましたが、相談者数が昨年のほぼ２倍来られました。私の事務所の所在地である天王寺区はここ最近のマンション建設ラッシュで、郊外の住宅を売却して引っ越して来られる方が多く、その関係で譲渡の相談が増えたものと思われます。ほとんどの方が売却による損失がでており、一定の場合にはその売却損失を他の所得から差し引いたり、翌年以降に繰り越したりすることができるのですが、要件が厳しいので適用できる方は限られます。

相談者は年配の方が多く、「夫婦二人だけなので一戸建てよりマンションの方がいい」、と言っておられた方もいました。天王寺区は文教の町として、学校や寺、おまけに病院も多く、交通の便もいいので住宅地としては大変人気があります。セカンドライフは都会で、というニーズには打って付けなのかも知れません。一方、老後は都会を離れて田舎暮らしがいいという方も多いようです。「空気のいい田舎で野菜などを栽培しながら、のんびりと自給自足に近い生活をしたい」、というニーズも結構あるようで、老後は「都会派」と「田舎派」と二極化しているようです。

最近「格差の拡大」ということが国会などでも取り上げられ、話題になっています。「格差」とは、大企業と零細企業、都会と地方、貧富 等々ありますが、経済面からはよく「勝ち組」「負け組」などと言われます。日本は自由主義国家ですから経済上の競争は原則自由となっています。郵政民営化も、民営化することにより既得権益を外して競争原理を働かせ、よりよいサービスをより安く提供できるような仕組みを作ろうという発想だと思います。かつて、電話は日本電信電話公社が独占していたものですが、NTT として民営化し、他社も参入できるように規制緩和したからこそ、携帯電話も安くなり、成人のほとんどが持てるようになったのではないでしょうか。

確かに、なにもかも自由ということでは「弱肉強食」で、規模の小さなところはたまったものではありません。ある程度公平さを維持するためにも最小限のルールとしての法律がある訳ですが、消費者の立場にたてば、企業が競争し、よりよい物を安く提供していただくのはありがたいことです。しかし、中小企業側の立場では、果敢に挑戦する経営者と保守的な経営者、いろんなタイプの経営者がいる中で、特に苦戦している企業にとって、競争社会においては格差が生まれることは仕方がないと割り切れるのか、難しい面がありますね。

ところで、競争社会ではルール違反をする企業が生じやすくなりがちです。今やマンションの耐震偽装事件やライブドアの証券取引法違反事件などが注目をあびていますが、顧客や投資家、さらに社員までも欺いた罪は重いと思います。いずれの企業も短期間で急成長したのですが、ライブドアはみせかけの急成長で実は中味はあまりなかったようです。ルール違反をしないと急成長しないということでは決してなく、また、急成長それ自体を悪いといっているのでもなく、社会や市場のルールに背を向けたことが問われているのです。「出る杭は打たれた」というのは誤解であり、チャレンジ精神そのものは尊重されるべきものだと思います。

私の自宅周辺では農家が多いのですが、野菜の一反（３００坪の面積）当りの収穫高はものにもよりますが年間１０万円程度です。肥料や農薬などの費用がかかるので手取りはもっと少なくなります。一年間額に汗して一生懸命働いてもそうです。もちろん、これだけでは生計をたてるのは難しいのですが、農家の方は日課として、朝早くから畑に「出勤」し、夕方暗くなるまで「仕事」をします。一方、個人の株式投資で、証券会社の発注ミスに乗じてたった１０分間で２０億円儲けた若者がいると聞く。単純に比較するのは無謀かもしれませんが、この格差をどう考えるか・・・。

2006年2月　西野　律